

3-2 修景ガイドライン

修景ガイドラインは、次の2つで構成されています。

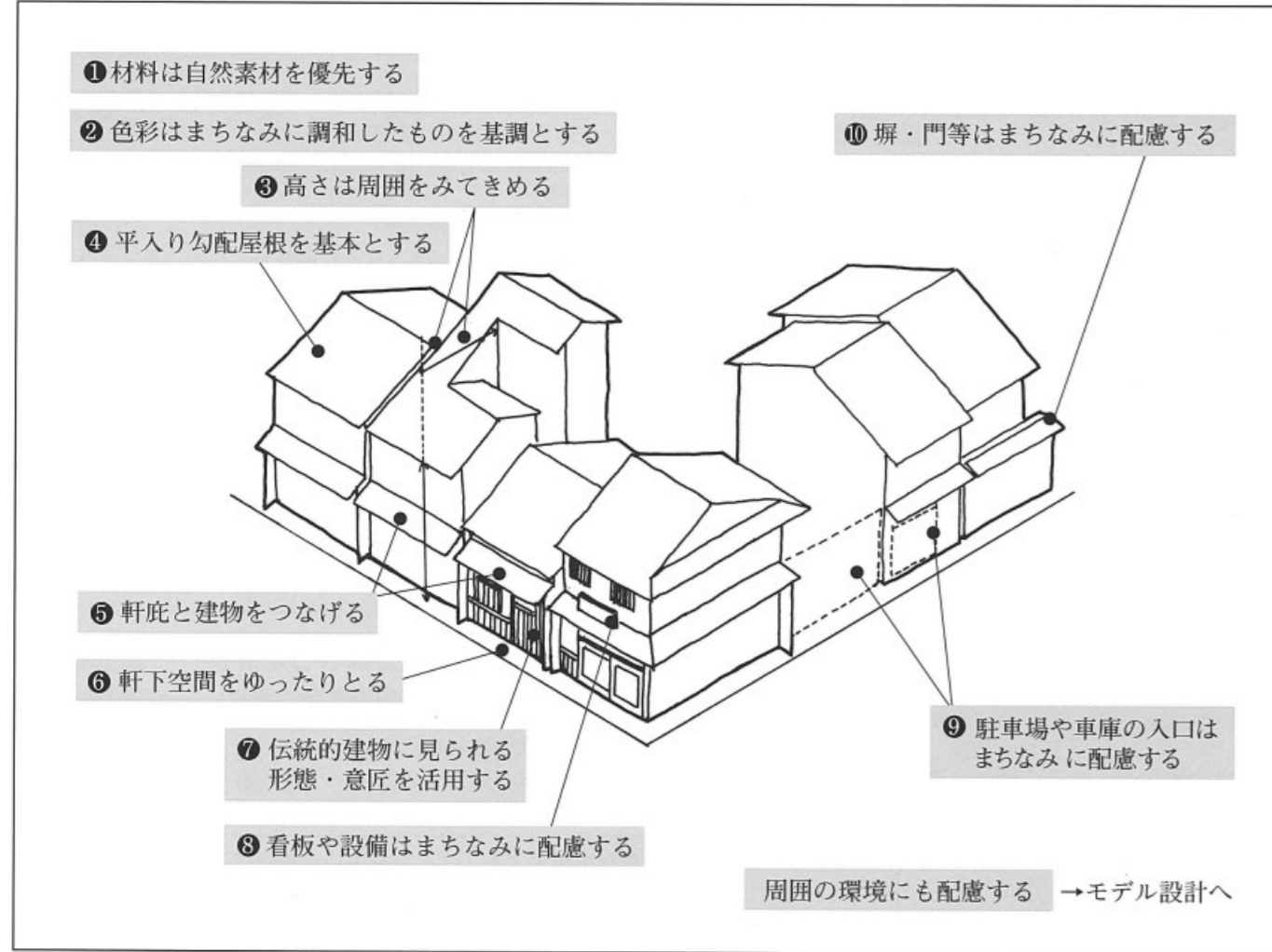
(1) まちなみ・住まいづくりの作法

平野郷で修景を行うための基本方針です。

- (2) 修景基準
- 伝統的建物など
 - 新しい建物
 - 建築設備・付帯物など

作法をもとに、具体的な部位ごとの修景方法を示しています。

(1) まちなみ・住まいづくりの作法



■伝統的建物の修景の例



(2) 修景基準

修景基準には、「伝統的建物などの修景基準」「新しい建物の修景基準」「建築設備・付帯物などの修景基準」の3つの基準があります。この修景基準を満たしたのものには、費用の一部を補助します。

(詳しくは、P.25をご覧ください。)

■伝統的建物などの修景基準

項目	作法	修景基準
素材	①	伝統的素材や自然素材を用い、やむを得ない場合には、色合いや素材など周囲に違和感のない建材を用いる。
色彩	②	けばけばしい色合いを用いず、まちなみに調和した明度・彩度を基調とする。
外観輪郭	⑤	伝統的建物の外観をバラベット等で覆わず、庇を復元するなど伝統的建物の輪郭を保全する。庭付戸建は、通りから見える部分が伝統的輪郭となるよう工夫する。
屋根	④	切妻・平入り、和瓦葺きを原則とする。伝統的な屋根勾配(4寸5分~5寸)を基本とする。茅葺き町家についてはトタン葺きを可とするが、まちなみに調和した色彩・意匠とする。
庇(ひさし)	⑤ ⑥ ⑦	できる限りオリジナルの形状へ復元する。
		華美な意匠とならないようまちなみに調和したものとし、伝統的な意匠を活用する。また、祭礼時などの空間演出に対応できるよう工夫する。
1階	⑤ ⑥ ⑦	華美な意匠とならないようまちなみに調和したものとし、伝統的な意匠を活用する。
2階		華美な意匠とならないようまちなみに調和したものとし、伝統的な意匠を活用する。
壁面	⑥ ⑦	オリジナルの壁面ライン・意匠への復元を心がけ、それぞれの時代の様式を保全する。やむを得ない場合には伝統的まちなみに配慮したものとする。
開口部	⑦	オリジナルの形状・意匠を尊重する。
		伝統的な建具を尊重する。やむを得ずアルミサッシを用いる場合は、出格子などの内側に入れたり、まちなみに調和する色調・意匠とする。スチールシャッターなどの使用は避ける。
		伝統的な建具を用いる。やむを得ずアルミサッシを用いる場合は、虫籠窓の内側に入れるなど、まちなみに調和する意匠とする。
軒下	⑥ ⑦	伝統的な床仕上(叩きや石敷)とする。軒下のしつらいについては、オリジナルの形状・意匠を尊重する。
塀・門	⑩	庭付戸建の塀・門については、当初の形態への復元を原則とする。
店舗等	①~⑩	店舗の改修は、まちなみに調和するものとする。原則として1階庇以下でおこない、それ以外の部分は他の修景基準に準ずる。

■新しい建物の修景基準

項目	作法	修景基準
素材	①	自然素材を優先するが、やむを得ない場合、色合いや材質など周囲に違和感のない建材を用いる。
色彩	②	無彩色やおちついた色彩が基調となるようにする。つやなしを基本とする。
配置	⑤ ⑥	道路境界から少し控えた位置に、間口ほぼいっぱい壁面または塀を設ける。
高さ	③	道路に面する部分の高さは2階までとし、3階以上は道路より後退する。
屋根	④	道路に面する部分は切妻、平入りとし、和瓦葺き・伝統的な屋根勾配(4寸5分~5寸)を基本とする。また、角地では入母屋造りを推奨する。
壁面・開口部	⑦	町家に見られる形態・意匠を活用する。大きな壁面をつくらない。
軒下空間	⑤ ⑥	1階部分に庇を設置し、軒下空間を確保し、伝統的な土間仕上げ及びしつらいを心がける。

■建築設備・付帯物などの修景基準

項目	作法	修景基準
建築設備	⑧	空調室外機、設備メーター、ダクトなどの建築設備は、道路から見えない位置への設置を原則とする。やむを得ない場合には、木製格子などで覆ったり、まちなみに調和するものとする。
塀・門	① ② ⑩	コンクリートブロックや金属類が露出することは避け、まちなみに調和した質の高いものとする。
広告物・看板	② ⑧	位置、大きさ、意匠、色彩に配慮する。看板類の大きさは建物の外観形態を隠さない程度にし、まちなみに調和した質の高いものとする。
その他付属物等	⑧	自動販売機やゴミ置き場等は目立たないデザインとなるよう工夫するか、道路から見にくい場所に設置する。
車庫	⑨	車庫の開口部は、伝統的町家の開口部の意匠を応用するなど、まちなみとの調和を図る。スチールシャッターなどの使用は極力避け、デザインに配慮する。
青空駐車場	⑨ ⑩	道路に面した駐車場は、伝統的様式の塀で修景するなど、まちなみに調和させる工夫をする。

※マンション等規模の大きな建物場合は、まちなみへの配慮が特に大切です。計画の際にはご相談ください。